

MEMORIES OF NEW ZEALAND

ワイカト & マタフツ クラブ交換記録

March 15th~30th 2009

ED 橋本 忠幸
AED 西村 貴美子



The Friendship Force of Aichi

ありがとう。ニュージーランド

杖をついている人が、お年寄りが親身になって案内をしてくれた今回、さよならパーティーの最後は特に胸にジーンと来た。杖が離せないのに、椅子から立ち上がって全員が手を繋ぎ、歌を唄い一緒にダンスを踊ってくれた。うれしい一瞬。初めてのED、何度もメールを出し、うるさがられたのではないだろうか。英語が苦手な私が代表スピーチ。原稿を読んだので、途中で詰まって、皆さんをはらはらさせる事はなかったが、New Zealandの皆さんには下手な発音で、理解出来ただろうか。そんな心配も最後の全員の踊りが消し去ってくれた気がする。



寿司を作ったの料理交換。軽飛行機に乗っての空中散歩。乗馬。汽車の旅。市長のメッセージ交換とレセプション。いずれも初めての印象に残る体験だった。

Waikato, Manawatuの皆さん、大変お世話になりました。素晴らしい老後生活、大いに参考になります。Ambassadorの皆さん、協力ありがとう。「時間を守ってくれて助かる」「後片付けはよく協力してくれる」とNew Zealandの人が話しているのを聞きました。渡航準備でお世話になった役員の皆さん、ご指導ありがとうございました。おかげでとても楽しい交換が出来ました。



Waikato Club

ED Gwentyth Dunford



Manawatu Club

ED Gladys Spall



Waikato クラブ訪問 3月16日~23日

交換プログラム

3月16日	Hamilton 到着、 ウェルカムアフタヌーンティ
17日	果樹園訪問、料理交換会、植樹、サプライズ(軽飛行機体験)
18日	市長訪問メッセージ交換、Kiwi HOUSE見学、Colledge訪問
19日	フリーデー
20日	Rotorua 観光
21日	フリーデー
22日	Farewell BBQ パーティ
23日	電車でManawatuへ出発

ウェルカムアフタヌーンティ



料理交換会



巻きずしとちらしずし
を作りました





果樹園で



植樹



記念プレート



軽飛行機体験



市長訪問



Colledge 訪問

学生達の歓迎の踊り

鼻と鼻をくっつけるマオリのあいさつ



ロトルア観光



フェアウェルバーベキュー



3月23日 Manawatuへ



MANAWATU クラブ 3月23日~30日

交換プログラム

3月23日	Feilding 到着 Welcome meal
24日	International Pacific Colledge 見学、乗馬体験、市長訪問
25,26日	バスで Wellington ツアー
27日	Sale Yard で牛や羊の競りをみる Horse Drawn Era museum
28日	フリーデー
29日	Farewell party
30日	帰国

電車で Feilding 着



Feilding's Clock Tower



乗馬体験



Wellington



Sale Yards 見学



牛、羊の競りがおこなわれる

Horse Drawn Era museum



Farewell Party



市長訪問が記事になりました



Extending friendship from Japan

Eleven Japanese Friendship Force members from the city of Aichi arrived in Feilding on Monday afternoon. The visitors had travelled by train from Hamilton after a week in Waikato and are spending this week being hosted by members of the Manawatu Friendship Force. Friendship Force member Ian Young said communication was simple since all the group spoke English. "New Zealanders are fortunate to speak English, as it is the language most other peoples aspire to learn. But that makes us lazy," he said. The programme for their stay in the Manawatu includes a welcoming meal with all the hosts, horse riding, a visit to the IPC and a coach tour to Wairarapa, a night in Wellington to see the Monet exhibition at Te Papa and a visit to Lindale and Foxton on the way home. Their farewell dinner will be at the Apiti Tavern. Mr. Young said the Friendship Force came from an ideal of former American President Jimmy Carter who believed an exchange in which people in different countries stayed in each others homes would be a step towards world peace.

フリーデー



すばらしきニュージーランド

橋本 忠幸



軽飛行機での空中散歩、乗馬。私にとっていずれも初体験でした。

ED を引き受けての初仕事は New Zealand の 2 人の ED とのメール交換から始まった。

約 20 回のメール送受信によって準備はやっと整った。その結果、Mayor の訪問などがある為、計 5 回のスピーチの機会があることがわかった。日本語で書き、英訳して加藤八郎さんにみてもらった。メール交換と英作文は私にとって英語の勉強の良い機会だった。ED だから

こそ頑張れた。軽飛行機の体験飛行はこれまた ED だからこそ実行。普通の観光旅行なら、高度恐怖症である私は間違いなく辞退。苦勞して作ってくれたプログラムを ED がキャンセルしては何が国際交流。意を決して乗った。200~300 メートル上空からの眺めは怖かったが確かに素晴らしかった。2 度と出来ないだろう。西部劇が大好きな私は、一度馬に乗って見たかった。念願がかない、実に爽快、こちらはまた何度でも乗ってみたい。

今回の渡航は励まされ、教えられるホームステイでもあった。ちっとも返事のくれなかった ED の Gwenythさんは私の下手なスピーチの後、「良かったよ」と声をかけてくれた。どれほど勇気付けられたことか。Grahamさんには「身振り手振りと相手の目を見る。それと笑顔があれば英語が出来なくても交流は十分」と元気付けてもらった。ED の Gladysさんのご主人の Jimさんは 90 歳にもかかわらずすべてのイベントに杖を突いて参加し、案内してくれた。且つ、食後の後片付けは私の皿まで取ろうとしてくださった。Gladysさんは当然のように見守っていた。真の敬老とは何かよく解かった。いずれも心温まる教訓でした。

生きる喜び・楽しみ……そこには生きることへの誇りが……

安藤 龍藏

初めの訪問地ハミルトンに到着。ところが、ホストは前日から急病。不安な気持ちの中、歓迎会の席で山田さんと私は代行のロブさんに挨拶。家に着き、彼が一人暮らしであることを知った。その日、彼は朝 4 時半に起き、掃除・洗濯、夕食の牛のブロック肉を 8 時間煮込んでから、空港に来てくれたのだった。年齢 74 歳。7 年前に妻を亡くし、右脚は 6 回も手術を受けている。こんなハンディがあるにもかかわらず、急遽、ホストを引き受けてくれた。

彼には、家族が公認するリンという女性がある。彼女は 14 年前に夫を亡くし、同じ FF ワイカトの会員で 72 歳。小田さんのホストでもある。彼らの週のスケジュールは、病院のボランティア活動に始まり、スイミング、図書館、リハビリ、コーラス、そして週末は二人で過ごし、日曜日は教会で礼拝するという一週間である。

リターンバンケットの時も、人生を支え合って生きている二人は輝いていた。互いに信じ合い、楽しみや苦しみ、喜びや悩みを分かち合い・助け合うベストフレンドの二人から生きることへの誇りを感じた。

今回のニュージーランドの渡航では、齢を重ねながらも素晴らしい人生を送っておられる多くの FF 会員の姿に接することができた。自分を含め、高齢化が話題にあがる FF にあって、齢のみが老いではなく、理想と希望を持ち続けることの大切さを学んだ交換であった。



ジョークも同じ感覚で

富岡 ひろみ

このたびの交換は私にとってパーフェクトのものとなった。2年前に息子達とニュージーランドの観光ツアーを楽しんだが、その美しさを見れば見るほど観光収入だけであるまい人々の生活をとて
も知りたくなっていたからである。

あちこちで目にする手入れのいき届いたリタイアメントヴィレッジ。人生の責任を果たした後の親世代の自立の姿を見るような気がした。

毎日のようにジョークを共有できたのもうれしかった。たとえばホストから私が育てているバラの名前を尋ねられて、私が「エイブラハム」に続く「ダービー」が思い出せなくて口ごもっていると、「リンカーン」と言うから、私が「そんな偉いバラはもってないの」と切り返して笑いとなり、また素人オペラに出演している彼が「マイフェアレディ」と言って見せたのは若い美女と手を組んだ彼の自慢の写真らしい。で、「あなたはヒギンズ教授なのね？」と尋ねると「No,no, 群衆の一人さ」と答えてまた笑いとなった。ホストの皆さんの気配りや思いやりなど、とても書ききれるものではない。高齢であろうと身体に障害であろうと出来る範囲でボランティアに参加しようとするFF NZの人々。心うたれ、多くを学んだ旅となった。



日常から見たニュージーランド

富岡 正男

お世話になったホストの家は2軒とも我が家とは比べものにならない大きさと立派で綺麗でした。内部はきちんと整っていますが主の趣味の良さが調度品、生け花そしてさりげなく置かれた雑誌と新聞にもうかがわれました。どうしてこうも綺麗にしておけるのか不思議です。台所も同様、冷蔵庫にメモを貼りつけたり布巾をぶら下げないのです。とにかくスッキリしています。流しには **disposer** があり残飯をボンボン放りこむ。これでいいのか?とも思いました。

散歩に出れば歩道は広く、並木の太木と相俟って車の走行音ばかりでなく、視界を邪魔しない。車を意識しないですむといい。朝夕、散歩している人々は颯爽と大またで歩いていました。でれでれ歩いていませんでした。散歩する環境はうらやましいほどです。総じて、FF NZの人たちもそうですが振る舞いがゆったりしててせかせかしたところがありません。見習おうと思っています。でも我が家の生活の良さも感じています。朝飯と風呂はやっぱり日本がいい。



Wonderful New Zealand

小倉 小枝子

そのためか肥った人が目につく。あれは食べ過ぎということが素人目にもわかる。エネルギー量を減らして、野菜や果物や植物性蛋白をとればいいのと思うのだが。やはり、国の産業育成のためにたくさん食べる必要があるのだろうか。

もうひとつ違うことは、風景が広々していること。国土は日本より少し小さいのだが、人口は日本の30分の1。名古屋市の2倍が国の総人口とは。どこまでも続く牧草地に見えるのは羊や牛ばかり。そのため空気はきれいだし、どこでも絵になる風景が続いている。やはり日本とは違う。

今回の旅はホームステイを通じて、NZの成熟した大人の生活をかいま見たり、暮らし方、考え方、食べ物、交友の仕方など学ぶべきことが多かった。又、自分の生活を外から見直すいい機会を持つことができた。草の根の国際交流で普通のツアーの旅では経験できない素晴らしい旅でした。

心配していた股関節痛も杖は使用したものの、どうにか、皆さんと行動を共にできたことは嬉しかった。NZのFF会員のことを思えば、私は残されたたくさんの時を持っていることに気づかされ、嬉しくなりました。



初めて FF の旅に参加しました。前回ミネソタからのアンバサダーの一人をホストしたものの、自分がアンバサダーになるのは初体験でした。ワイカトでは一人だけでステイ。マナワツでは二人。趣味のハーモニカや歌、絵手紙などを総動員して、貧しい英語を補いながら、何とか気持ちが通じた時はうれしかった。

今回の旅で、印象に残ったのは、NZのFFクラブの高齢化。どちらのクラブも70歳代の平均年齢。中には90歳代の方もみえてびっくり。しかしながら彼らがFFの活動をアクティブにやってみえることにも驚いた。又、お世話になった方々のお宅はとても素晴らしく、高齢でウィドウでも、自分のために新しい家を持つということにも驚いてしまった。日本の考え方とはだいぶ違うようだ。又、なんとお相手を亡くした人同士が恋人としてお付き合いされていることや、周りの人たちが、それを認めていることにも。なんとフランクな人間関係であることか。一人一人が自立して自分の人生を楽しんでいるということでしょうか。又、食べ物にも驚く。バターにチーズ、ミルクに肉類。全くカロリーが多い食材が豊富に使われる。確かに乳製品の国なのだが、



美しい自然と南十字星の国

山田 晴久

今まで何回かホームステイをさせていただいたが こんなに自然が美しい国は初めてで



ある。日本と比べると人口が極端に少ないせいか 一軒当たりの土地がものすごく広い。そして車も少ない。みわたす限り緑である。だから空気がすごく澄んでおいしい。また夜はなんと星がきれいだ。私は昔から南十字星をゆっくり見たかった。真っ黒な空

無数の星、その中で一段と輝く南十字星。私は何度も何度も毎晩ゆ

っくり眺めた。ニュージーランドは新しい国 これといった史跡は何もないが今回は本当に自然の良さを堪能させてくれた。「ニュージーランドでは南の島へ来なくては来た（北？）とは言えない」と言われるが次は南の島へ来たいです。



ニュージーランドの思い出

加藤 孝子

とうとう今日が最後となりました。その夜も夜空を見上げるとものすごい数の星が頭のすぐ上にあります。大小さまざま 集合している所や散らばっている物とはっきり見えるのです。本当に星が降ってくる感じです。農場の中ではまわりが暗いので一層美しく輝いているのですね。感激です。ニュージーランドのホストの皆さま、いろいろな所へ連れて行って下さってありがとうございました。マナワツのイーアンは‘メンズクラブ’と‘プロバスクラブ’に所属しているのですが 月一回 夜にポトラックパーティが開かれます。6組の夫婦が順番に 家に招くのです。TV、ラジオ、新聞のニュースから家族、友人、病気、何でも話して情報交換して親睦を深めています。何を話しているのか全部はわかりませんが、時々私のほうを振りかえって私を参加させようとしてくれます。とにかくよく笑うことには驚きます。

ニュージーランドの人々は器用な方が多く、「ワークショップを見せるよ」と案内された隣の家には驚かされました。エンジンのコレクション、整頓された棚はボルト、ナットの小箱、ペンキや缶やオイルが並び、たくさんのスパナ等の道具が 壁につるされていました。「あなたは鍛冶屋さんですか？」と冗談っぽく尋ねると「ジャスト ホビー」とにこにこ誇らしげに答えてくれました。ジムさんは90才です。



お手本にしたいKIWIたちの生活

小田 さえ子

「どうしてご主人と一緒に来なかったの？なんで日本においてきたの？」

ワイカト、マナワツ両方のステイ先で、何人かに質問された。私達は、ほとんどの人が一人で参加。日本人が、カップルで行動しないことを不思議に思ったようだ。

マナワツでのこと。私のホストのビアトリスさん(B)とボーイフレンドのロブさんは、お互いにパートナーを病気で亡くされたあと、FFの活動を通して知り合った。お二人は、とても仲がよく、毎日、会っている。彼らの息子さんや娘さんも、2人が仲良くしているのを喜んでいるとのことだ。こんなカップルは他にもいて、小倉小枝子さんのホストも、同じマナワツクラブのメンバーの中にボーイフレンドがいた。70歳を超えてからこのように恋人同士のようにお付き合いできる関係は、日本では、あまり聞いたことがない。これは、世間体を気にするためもあるが、それよりも、多くの男性が家事全般を女性に頼っているのも一因だろう。私の友人の中に、家を留守にする時は、ご主人の食事の支度をしてこななければならないという人がいる。こんな状態だから、「女やもめ」になったら、夫の世話から解放されて、「花が咲く」のだろうか。Bさんとロブさん、小枝子さんのホストとボーイフレンドを見ていて思ったこと、男性も女性も自立して生活しているので、互いに対等で、いいお付き合いができるのではないのだろうか。

2週目のステイ先、マナワツのホスト、ヘレンも一人暮らしだった。first-aid-takerで、救急車で人がや病人を病院に運ぶ時、

応急処置をするのが仕事で、救急車も運転する。生き埋めになった人を救助するのは、体力が必要なので、家には体を鍛えるマシーンが何台かあった。NZの女性は、手芸が上手で、どの家に行っても、きれいな刺繍の作品が飾ってある。ヘレンも、アルパカや羊の毛を紡いで、糸にし、それを染めて、セーターやマフラーを編んだり、織機を使って織ったりする。

古い童話に出てくるような紡ぎ車で、毛を紡いで糸にするのを見せてくれた。

最も、感動したこと。

NZの人々がボランティア活動を生活の一部にしていること。Bとロブは、教会に行く時は、足の不自由な近所のお年寄りをピックアップして教会まで車に乗せてあげていた。ヘレンも、近くに住むひとり暮らしのお年寄りを定期的に訪問している。B、ロブ、ヘレンは、ボランティアをしているという意識もなく、自然な行動のように思えた。生活の中に日課として、お年寄りをサポートすることが位置づけられている。これから高齢者がどんどん増えていく日本で、こんなふうに助け合うことができれば、どんなにいいだろう。また、男女とも、自分ひとりになっても、自立して生活する力を身につけている、そんな社会になってほしい。私自身、女友達と過ごすのも楽しいが、パートナーである夫をもう少し大切にしたいと思う。今回が初めてのアウトバウンド参加だったが、これからの私の生き方を考えさせてくれるNZ渡航だった。同行した方たちとも親しくなれて、これからもFFの活動に参加するのが楽しみである。



ニュージーランドの街を歩いて

尾村 忠男

今回は、フリーデイを利用して街を一人歩きさせていただきました。フリーデイの前日の晩に「明日は一人でウォーキングをしたい」とお願いすると、私の英語力を考えてか大変な心配のしようで、まるでわが子を初めてのお使いに出す様な感じでした。地図でルートの確認や住所、電話番号を書いて迷ったらこの紙を見せろとか、昼のおやつにはこれを持って行けとか、細かく注意してくれました。出発の時には、それでも尚心配そうな顔で見送ってくれました。

私も最初は少し不安でしたが、持って行った地図には通りの名前が入っており、交差点には通り名の標識があり、まったく迷うことはありませんでした。



ワイカトリバー、ハミルトンレイク、マナワツリバーの辺や街の路地などを歩きました。ニュージーランドでは、ウォーキングやサイクリング兼用の道路がよく整備されていて、ウォーキング、ジョギング、サイクリングの人達とよく出会いました。街の道路は路地の一本一本まで通りの名前が付いていて、道路脇の緑地帯は芝生がきれいに刈られています。道路に面した家の庭には木や花が植えられています、歩いている人の

目を楽しませてくれます。また、街を歩いている人も親切で、私が地図を片手に歩いていると、困っていないかと向こうから声をかけてくれます。ウォーキングから帰ると、安心したのか大喜びで迎えてくれました。私も道中の様子を単語を並べただけの英語と身振り手振りで説明すると、大げさなジェスチャーで驚いたり、喜んだり一所懸命聞いてくれました。

どちらのホストにも本当の家族のように接して頂き、優しさに包まれた2週間を過ごさせて頂きありがとうございました。

素晴らしかったサプライズ

西村 貴美子

交換一日目、午前中に果樹園訪問、料理交換会を終え、そのあとのスケジュールはサプライズということで知らされていませんでした。サプライズってなんだろうと思っているとホストの **Gwenyth** さんが隣の座席の私に「アジアに飛行機を輸出しているのよ」とか「あなたが一番に乗るのよ」とかいうので何の話をしているのかと、思っていると広い原っぱに車がつかまりました。小型機が2機ほどとまっていました。えー？ まさか飛行機に乗るのでは？それは二人乗りの本当にかわいい小型飛行機でした。言われるままにヘルメットを着け、ベルトを締め、**take off**。何しろ私が一番乗りなのです。風がびゅんびゅんと顔に当たりとても心地よく、飛行機が少しずつ高度を上げるにつれ眼下の景色がどんどん小さくな



って牧場がまるで緑の絨毯を敷き詰めたように見えました。「向こうがハミルトン」とパイロットが指さす先に箱庭のようなハミルトンの町が広がっていました。高度 500 フィート（150メートル）、気分はどう？とパイロットに尋ねられ、ただすごい、すごいとしか言葉がでてこない。青い空、白い雲、緑の絨毯、その上に見える点々とした羊の群れ。思いもかけない素晴らしいプレゼントでした。たった10分ほどの空中散歩でしたがニュージーランドの美しい風景がしっかりと私の眼に焼き付き忘れることのできない思い出になりました。

ニュージーランドホームステイの思い出

小竹 和子

今回、初めて参加させて頂きました。驚くことが多すぎて何を書いてよいのかわかりませんがとりあえず・・・

最初に感じたことは NZ の FF メンバーが高年齢の方が多いということです。（最年長の方は90歳とか！）それなのに皆さんとても元気で活動的で 生き生きと暮らしてみえます。ワイカトでお世話になった77歳の未亡人のアイリンさん、とても元気でおしゃれな婦人です。若い時は美術の先生だったそうです。他の家と比べるとあまり大きくありませんでしたが、バスルームが3つもあるのに驚きました。おかげで自分専用のバスルームを使わせて頂きました。なんだかリッチな気分になります。彼女は料理が得意で毎日おいしい夕食とデザートを用意して頂きました。日本にはデザートの習慣がなく、これこそ外国風だと思いました。家は町なかのワイカト川の側にあります。だから時間のある時は川沿いを散歩したり、スーパーへ行ったりしました。

次のステイ先はマナワツです。ホストさんは65歳の一人暮らしのヘレンさんで、小田さんと一緒に滞在しました。彼女は今も働いていらっしゃいますが この1週間 私達のために仕事を休まれたそうです。彼女の家はワイカトとは違いとても田舎の一軒家でした。見わたす限り草原で、ほかには何もありません。夜は真っ暗になり家の明かり以外何も見えません。夜、空を見上げれば溢れるような星空に、とても感動しました。日本ではこんなにたくさん星は見られません。家には犬一匹、馬三頭、羊二頭をペットとして飼ってみえましたが、おかげで私たちも癒されました。他にも彼女は馬主さんでもあり、そのおかげで私たちは二度も競馬場へ連れて行ってもらいレースを楽しむことができました。（少しお金をかけましたけどね）又、カーレースにも連れて行ってもらいました。自宅では長靴を履き、芝刈り機に乗って芝刈りの体験、哺乳瓶で羊にミルクを飲ませる体験もさせてもらいました。

何もかもが初めての経験、体験で面白く楽しかったです。二週間のホームステイでしたが現地の人と共に生活し、海外気分を楽しむことができました。このような貴重な体験をできたこと、大きな問題もなく2週間無事過ごせたのは皆さんのおかげです。ありがとうございました。



マッチングリスト 【 Waikato Club】

ED Gwenyth DUNFORD

	アンバサダー名	ホスト名
1	橋本 忠幸	Graham & Margaret GARDEN
2	安藤 龍藏	Graham & Lynn VOYCE / Rob THOMPSON
3	山田 晴久	同
4	富岡 正男	Keith & Elizabeth BURT
5	富岡 ひろみ	同
6	西村 貴美子	Gwenyth DUNFORD
7	小田 さえ子	Beatrice BRAZENDALE
8	小竹 和子	Eileen BEECH-KELLY
9	小倉 小枝子	Lois MUNDELL
10	尾村 忠男	Athol & Noreen MCLACHLAN
11	加藤 孝子	Ken & Melva SOLE

マッチングリスト 【Manawatu Club】

ED Gladys SPALL

	アンバサダー名	ホスト名	デイホスト名
1	橋本 忠幸	Gladys & Jim SPALL	Wilf MOFFAT
2	安藤 龍藏	Esmae & David STROUD	Brian & Rosalie HUNTETR
3	山田 晴久	同	同
4	富岡 正男	Barry & Joyce MELODY	Henk & Midge JANSSEN
5	富岡 ひろみ	同	同
6	西村 貴美子	Helen QUENNELL	Betty SANSON
7	小倉 小枝子	同	Margaret HUMPHREYS
8	小田 さえ子	Helen STENT	Keith & Margaret MORRISS
9	小竹 和子	同	同
10	尾村 忠男	Grahan & Elaine WILTON	Keith & Lesley CLARK
11	加藤 孝子	Ian & Dianne YOUNG	Gladys SPALL

ワイカト&マナワツクラブ 交換記録

編集編集・発行 The Friendship Force of Aichi

編集担当 西村 貴美子

写真提供 安藤 龍藏

FF 愛知

ホームページ : <http://homepage2.nifty.com/FF-Aichi>

事務局 : 〒470-2101

愛知県知多郡東浦町森岡祖母懐 15-37

鷹野 晴子

発行日 : 2009 年 9 月 19 日